

長岡工業高等専門学校
令和 4 年度自己点検評価報告書

令和 6 年 3 月 7 日

長岡工業高等専門学校 自己点検評価改善委員会

機関別認証評価における指定改善事項に対する改善状況

1.指定改善事項の対応状況

対象となる基準	基準 1
指定改善事項	○前回の機関別認証評価で指摘された改善を要する点のうち、「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「入学者選抜の基本方針」が明文化されていない」、「準学士課程の一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている」について、「入学者選抜の基本方針」の明文化及び試験問題のチェックに関する取組が十分に改善されているとはいえない。（観点 1－1－④）
令和 3 年度対応状況	・令和 3 年 11 月 18 日に、「長岡工業高等専門学校学科 三つの方針」及び「長岡工業高等専門学校専攻科 三つの方針」を改正し、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）内に「入学者選抜の基本方針」を明文化した。 【根拠資料・データ】 資料 1-01_「学科『三つの方針』」 資料 1-02_「専攻科『三つの方針』」 ・令和 3 年 8 月 5 日に教務委員会にて「成績評価の心得」を制定し、試験問題の使い回しの禁止について明文化した。また上記に基づき今年度より、令和 4 年 5 月 19 日付のメールで「同一試験問題を使用しない旨の誓約書」の提出と、チェックのため前年度及び今年度の試験問題の提出を義務付けた。 【根拠資料・データ】 資料 1-03_「令和 3 年度成績評価の心得」 資料 1-04_「同一試験問題を使用しない旨の誓約書について（依頼）」 資料 1-05_「同一試験問題を使用しない旨の誓約書」
令和 4 年度対応状況	令和 3 年度実施高等専門学校機関別認証評価 評価報告書に、令和 5 年 3 月付で以下のとおり追記された。 ○「前回の機関別認証評価で指摘された改善を要する点のうち、「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「入学者選抜の基本方針」が明文化されていない」、「準学士課程の一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている」について、「入学者選抜の基本方針」の明文化及び試験問題のチェックに関する取組が十分に改善されているとはいえない。」とする改善を要する点は、令和 3 年度に改善されている。」

2.令和4年度点検項目について

1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。

自己点検評価改善委員会を整備しており、学内の総合的な自己点検・評価を毎年度実施している。7年に一度の受審が義務付けられている機関別認証評価に向け、機関別認証評価の評価項目のうち2つの観点の自己点検・評価を年度ごとに実施している。

1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。

令和4年4月19日、令和3年度機関別認証評価結果を本校ホームページに掲載した。

1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。

令和4年10月6日～14日に、令和3年度を対象とする全教職員及び非常勤講師へのアンケートを実施し、結果を取りまとめた上で、過半数を超える深刻な改善要望が無いことを確認した。12月7日開催の校長連絡会において、自己点検評価改善委員長から、アンケート結果に基づく対応方針が示され、改善後に報告するよう依頼した。

1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。

指定改善事項に係る報告により、令和3年度に改善された旨、令和3年度機関別認証評価結果へ追記済み。(令和5年3月)

1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

点検の結果、準学士課程の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)が明確に定められており、現時点での改正の必要なし。

1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)が、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

令和4年度、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)と卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との整合性向上のため、長岡工業高等専門学校学科「三つの方針」一部改正(令和4年7月13日)。

1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

令和３年度、選抜方法追記に伴うアドミSSION・ポリシー改正のため、長岡工業高等専門学校学科「三つの方針」一部改正（令和３年１１月１８日）。

１－２－④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

現時点で改正の必要なし。

１－２－⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

令和４年度、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性向上のため、長岡工業高等専門学校専攻科「三つの方針」一部改正（令和４年７月１３日）。

１－２－⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミSSION・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

令和３年度、選抜方法追記に伴うアドミSSION・ポリシー改正のため、長岡工業高等専門学校専攻科「三つの方針」一部改正（令和３年１１月１８日）。

１－３－① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。

社会の状況等の変化に応じて適宜見直し、改正を進めている。

【令和３年度の対応】

・長岡工業高等専門学校学科「三つの方針」、専攻科「三つの方針」一部改正

令和３年１１月１８日

令和４年１月１９日

・長岡工業高等専門学校教育理念・目標並びに養成すべき人材像・教育上の目的等を定める規程の一部改正

令和４年１月１９日

【令和４年度の対応】

長岡工業高等専門学校学科「三つの方針」、専攻科「三つの方針」一部改正（令和４年７月１３日）

３－１－① 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。

校地及び校舎は法令に従い適切に確保している。高等専門学校設置基準第２３条に規定され

ている専用施設（校長室、教員室、会議室、事務室、教室、研究室、図書館、保健室、学生控室）を備え、その他以下の施設・設備が整備されている。

- ・運動場（グラウンド、第1・第2体育館、剣道場、体育活動センター（柔道場））
- ・実験・実習工場
- ・自主学习スペース（図書館1階など）
- ・厚生施設（福利棟）

校内施設・設備の安全衛生管理のため、安全衛生委員会を設け、機械、器具及び設備に係る危険・有害性等の調査及びその結果に基づき危険防止措置に関すること等について管理している。また、毎月校内巡視を行い、その報告内容を基に、現場の状況を確認した上で、改善を要する箇所があれば適切に改善を行っている。

3-1-② 教育内容、方法や学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

ICT環境の満足度と利活用状況についてのアンケート結果により、学生から校内無線LANの接続状況と通信速度へ改善要望が寄せられているものの、教員・職員のICT環境への満足度は標準を上回っていること、ICT環境が有効に活用されていることがわかった。令和4年度後半に実施予定の、高専統一ネットワーク工事後に改善状況と課題をアンケートにより改めて把握し、今後の改善目標と必要な措置について学内の関係組織と連携して協議する。

3-1-③ 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

法令に基づき、図書館の設備を備えている。約10万冊の蔵書を保管しており、図書の分類ごとに系統的に配架している。（学術書、文学、雑誌、洋書など）また、図書館ホームページから各種データベースにアクセスができ、学術雑誌や文献、新聞等の閲覧が可能である。2022年度は学生1,123名、教職員（非常勤・嘱託含む）245名の利用があり、図書の貸出総数は28,595冊となった。学生が教職員の引率の下、書店に出向き、図書館の蔵書に加えて本を選ぶブックハンティングや、低学年向けの図書館ガイダンス等、図書館の利用者増加に向けた取り組みも実施している。

3-2-① 履修等に関するガイダンスを実施しているか。

以下のガイダンスを実施している。

1 始業式ガイダンス

対象者：本科1から5年生

実施日：令和4年4月6日

内容：学級担任による学習上の諸注意

2 新入生研修

対象者：本科1年生

実施日：令和4年4月7日～8日

内容：新入生向けの諸説明

3 インターンシップガイダンス

対象者：本科4年生

実施日：令和4年5月25日

令和4年8月1日

内容：履修手続きの説明やビジネスマナー講習会の実施

4 特色ある教育プログラムのガイダンス

対象者：本科4年生

実施日：令和4年10月3日

内容：本校で実施する教育プログラムの履修方法等の説明

5 選択科目履修指導

対象者：本科3から4年生

実施日：令和3年12月

内容：次年度に履修する選択科目の履修指導

3-2-② 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握され、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

・学生相談員（外国人留学生チューター）

学生41名を採用し、2,144時間実施。

また、対象者（ピアサポーター相談員として）へ実態調査アンケートを実施。令和4年度にフォローアップを実施予定。

・学習サポーター（図書館及び学生寮）

学生20名を採用し、981時間実施。

また、対象者（ピアサポーター相談員として）へ実態調査アンケートを実施。令和4年度にフォローアップを実施予定。

3-2-③ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行うことができる体制が整備されており、必要に応じて支援が行われているか。

4名に対して申請に基づき特別修学支援を実施。授業及び試験等において特別修学支援を実施。

3-2-④ 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

延べ、305名の学生から相談あり。担任及び学生相談室内にて情報共有し連携を図っている。

3-2-⑤ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能しているか。

各学科に進路指導室があり、進路ガイダンス等を実施している。

高専教育高度化戦略室キャリアデザインワーキンググループにおいて、令和2年3月に作成した本校のキャリア教育に関する冊子「キャリアガイド」を配布している。

3-2-⑥ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

学生支援委員会及びクラブ顧問による支援体制。

課外活動指導員採用に伴い、有識者による指導の実施。

3-2-⑦ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているか。

点検項目1) 学生寮を整備しているか。

結果：整備している。2022年1月から新たに国際寮（悠和寮）の運営が始まり、個室68室が増えた。この他、女子寮（清花寮）の老朽化に伴う、改修工事が2022年8月から2023年3月末までの約半年間に行われているところである。

問題点：国際寮を含む入寮選考方法については、今年度が実質、運用初年度につき、改善すべき点が今後出てくると想定される。

改善案：今年度の入寮選考結果から振り返りを行い、選考基準等改善すべき点を洗い出し、次年度に反映させていく。

点検項目2) 生活の間として整備し、有効に機能しているか。

結果：整備し、有効に機能している。再掲となるが、今年度から悠和寮が開寮し、個室が68室増えた。また、今年度は老朽化した清花寮の改修工事を行っている。

問題点：新・旧の寮で、新一年生において寮生活のルールを学ぶ環境が異なる。新一年生の場合、従来は低学年の棟において複数人部屋で上級生（指導寮生）と共に生活することで寮生活のルールを学んできたが、全室個室の悠和寮では新一年生がそのような経験が得られないため、単に規則やマナー等が明文化された「寮生活の手引」だけでは集団生活の間である寮生活に馴染めないケースが出ている。

改善策：国際寮における一年生の指導を担当する上級生を明確にする。また、各学期で欠席時数の多い寮生に対して寮務委員による指導を通じ、寮生活に適応できていない学生の早期発見と対応を実施する。

点検項目3) 勉学の間として整備し、有効に機能しているか。

結果：整備し、有効に機能している。新たな取り組みとしては、今年度から開寮した悠和寮1階のラーニングスペースを活用し、1年生対象の学習会を週一回の頻度で実施している。

寮の上級生（本科5年以上）による学習支援員を学内アルバイトの形で雇用し、一年生に数学を教える体制を整えた。

問題点：単発的な取り組みではなく、今後継続性のある取り組みとしていくために、予算確保等、支援体制を学校として整備していく必要がある。この他、現在の寮内のインターネット環境について、寮生アンケートの結果から特に4号館増築の寮生の不満が高い。

改善策：次年度へ学習会の本取組みの引き継ぎ、インターネット改善の取り組みを確実に実施する。

点検項目4） 管理・運営体制を整備しているか。

結果：整備し、有効に機能している。

問題点：電子届出制度(YouRest)を導入し、外泊・欠食届を寮生のスマホやパソコンから入力し申請できるようにしたが、週末の帰省等で申請を忘れる寮生数が増加し、点呼時の確認に手間が掛かっている。

改善策：電子届出制度の使用方法的周知徹底、システム上の不具合修正。